

Creating Corporate Value

HORIBAのCSRについての考え方
事業成長を通じてCSRを実現する

マテリアリティ HORIBAとしての重要課題の抽出

HORIBAは、1945年の創業以来、分析・計測技術の提供を通じて科学技術の発展に貢献することを使命として事業成長に取り組んでいます。急速なグローバル化や、AI・IoTの浸透が社会に与えるインパクトをHORIBAにとってのリスクとチャンスと見据え、あらゆるステークホルダーの期待に応える高付加価値を創出する企業であり続けるために、中長期経営計画MLMAP2020やさらに長期的視点での貢献分野と重要課題の特定に取り組んでいます。



HORIBAが取り組むCSR活動については、ウェブサイトでも詳しく紹介しています。
<http://www.horiba.com/jp/to-ur-stakeholders/>

重要課題特定 のプロセス

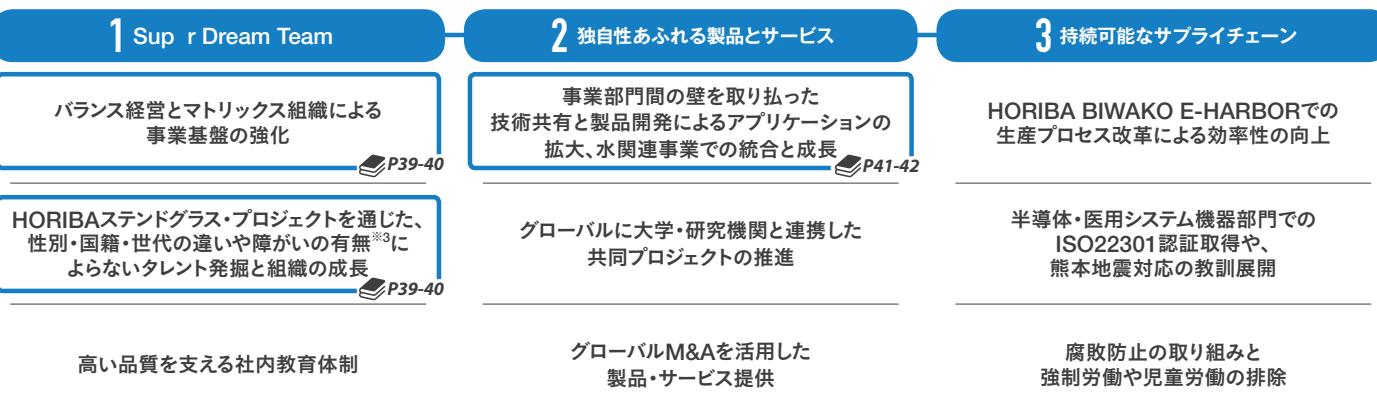
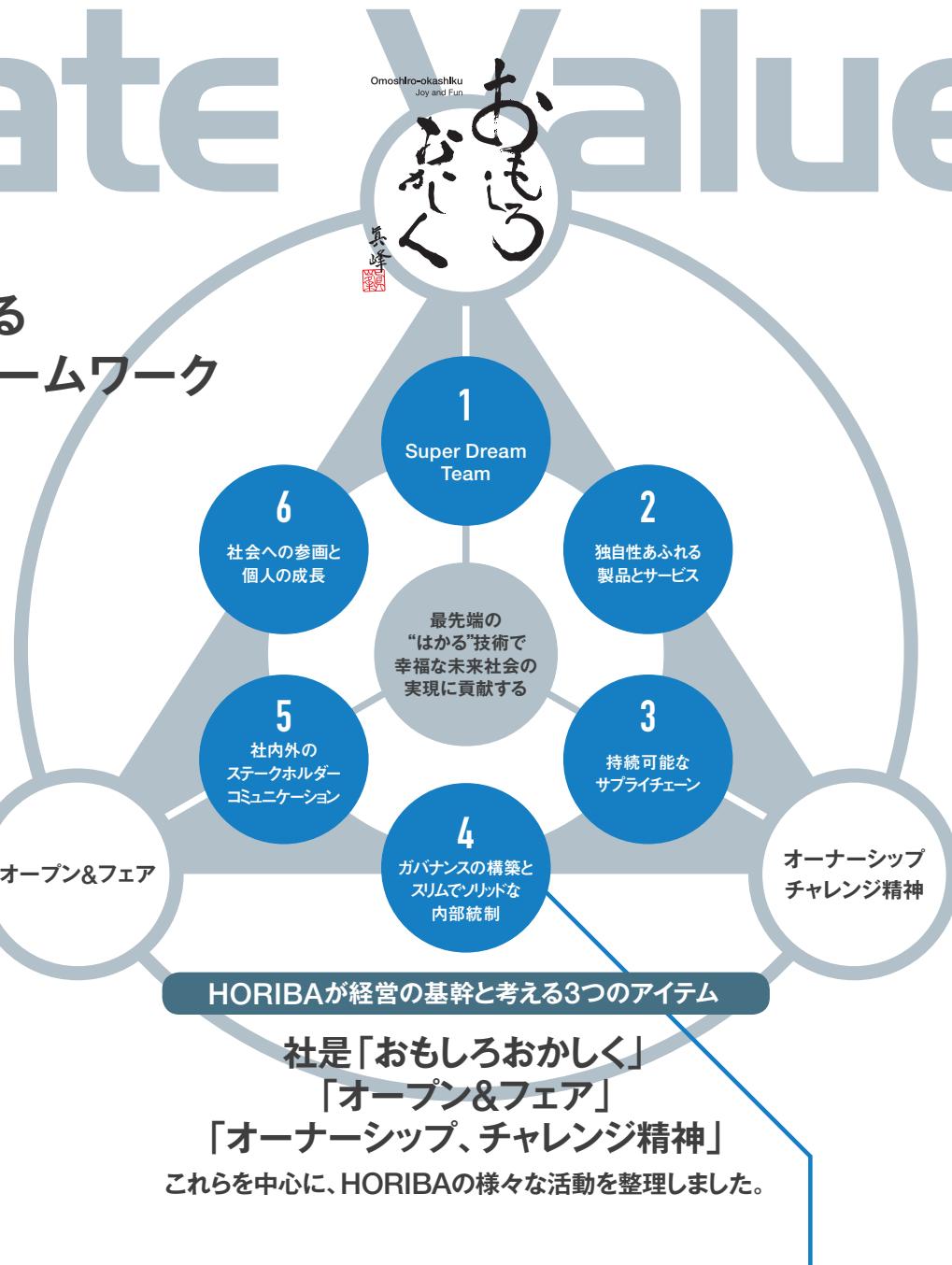
2016
2017
2018

- 堀場製作所CSR担当理事と各部門のコアメンバーによるESGワークショップを開始
- SDGs^{※1}やESG投資等のガイドラインを参考に、[HORIBAの様々な活動を洗い出し](#)(約100件)
- コーポレートフィロソフィやHORIBAの強みを確認し、社会課題の解決やステークホルダーとの関係において、[HORIBAが貢献すべき、あるいは貢献できる分野とフレームワーク\(デザインすごろく\)を検討](#)
- フレームワークに現状の取り組みを分類し、HORIBAグループCSR推進委員会(43-44ページ)で承認
- 年間25回のESGワークショップを開催
- CDP^{※2}に参画
- HORIBAグループCSR委員会に[ESG分科会](#)を設定
- HORIBAのユニークなCSR活動のグローバルレベルでの活動把握(世界各社ヘビアリング実施)
- 環境・ソーシャル・ガバナンス・広報の4分科会に分け、各分科会のミッションと2018年の活動計画を策定
- 次期中長期経営計画でHORIBAのCSRポリシーを明確化して社内外に発信
- HORIBAのCSRウェブサイト再構築と同時に对外発信強化

HORIBAが実践する 企業価値創造のフレームワーク 「デザインすごろく」で表現

デザインすごろくを応用!

デザインを考える場合、考慮する必要がある項目をシステムティックに配したチェックリスト。例えば、名刺のサイズを変更した場合、名刺入れやスーツのポケットまでが影響を受けることに配慮できなければならぬ、というように、関与する様々な事象を検討しなければならないことが一目瞭然に見えるフレームワークです。HORIBAにおいては、ビジネス活動に加えて見えない資産を形づくるあらゆる活動が相互に関係しあっていると考え、すくなくてはめて関係性を整理しています。



*1 SDGs 2015年9月の国連総会で採択された『我々の世界を変革する 持続可能な開発のための2030アジェンダ』と題する成果文書で示された具体的行動指針。持続可能な開発のための17の目標と169のターゲット(達成基準)からなる。 http://www.un.org/jp/activities/social_development/sustainable_development/2030agenda/ *2 CDP(カーボン・ディスクロージュープロジェクト)とは、機関投資家が連携して運営し、ロンドンに事務所を置く非営利団体CDPが、FTSE 100指数に該当する中から選定した企業に対し、環境戦略や温室効果ガスの排出量の開示を求めるプロジェクト。CDPは、世界の先進企業に情報開示を求めて質問状を送り、その回答を分析・評価して、投資家に開示している。 <https://www.cdp.net/ja/>

*3 一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE)に加盟して、障がい者の活動を推進しています。HORIBAウェブサイトでも紹介しています。 <http://www.horiba.com/jp/about-horiba/diversity/diversity-and-inclusion/> *4 ISOやOHSASなど複数のマネジメントシステム規格をひとつに統合したマネジメントシステムで運用すること。 *5 UNGC: 国連グローバル・コンパクト。 <http://ungcjin.org/gc/index.html> *6 HORIBA COLLEGE: 2009年に開校した、従業員が学生として、あるいは講師として学びあい教えあう場。 *7 HORIBA Blueberry Farm “Joy & Fun”: 滋賀県高島市の休耕地を借り上げて2012年4月に開園。新入社員による農作業、従業員やその家族参加によるブルーベリーをはじめとした野菜の収穫体験等を実施しています。